岐阜経済大学論集 36 巻 1･2 号（2002 年）

テクストにおける“-了”の機能*

――パーフェクトを中心に――

劉　綺紋

1. はじめに
2. 完結相（perfective）とパーフェクト（perfect）
3. “-了”パーフェクトの意味
4. 時間補語を伴う状態パーフェクト
5. 変化動詞の状態パーフェクト
5. 1. “-了”でしか表せないもの
5. 2. 変化動詞本来の意味素性との関係
6. 本来的に状態・属性を示す事象の状態パーフェクト
7. おわりに

1. はじめに

本稿は，動詞・形容詞に後接するアスペクト助詞“-了”[1)]を対象とし，テクストにおけるその機能について考察するものである。

“-了”について，最近の研究では完結相（perfective）として捉えることに定着しているようである。例えば，楊凱栄 2001 が定義している“-了”の「完了相」は perfective を指している。またそれ以前にも，例えば Яхонтов 1957 では“-了”を中国語の相対過去テンスの完結相とし，Li & Thompson 1981 や Smith 1997 でも“-了”を中国語の完結相としている。

*〔謝辞〕本稿の執筆にあたり，大阪大学の春木仁孝先生に，常にお励ましいただき，懇切な御指導を賜りました。この場を借りて春木仁孝先生に深く感謝申し上げます。

“-了”が完結相の視点アスペクト（viewpoint aspect）[2]を有し，事象を包括的に捉えるということについて，異論はない。しかし問題は，テクストにおける“-了”の機能を観察してみると，完結相のみでは解釈しきれない場合にしばしば遭遇する点である。例えば，(1)と(2)を較べてみよう[3]。

(1)　大家抬了棺材，上山，在樹椿根邊挖了坑，埋了。　（樹王 159）

みなは棺桶をかついで山に登り，切り株のかたわらに穴を掘って埋めた。　（山の主 150–151）

(2)　「他去世的前一天我還在學校看到他。他的脖子硬了，嘴巴也歪了——上半年他摔過一跤，摔破了血管——我看見他氣色很不好，勸他回家休息，他只苦笑了一下。我知道，他的環境困得厲害，太太又病在醫院裏。那晚他還去兼夜課，到了學校門口，一跤滑在陰溝裏，便完了——」

（冬夜 246–247）

「死ぬ前の日にも大学で会ったんだ。首筋が硬直して，唇も歪んでいた。——今年のはじめに一度倒れて，血管を切っていたんだ——あまり具合が悪そうなので，帰って休むようにいったんだが，苦笑いしていただけだった。奥さんが入院していたりで，彼がだいぶ困っていたのは，僕も知っていた。その晩も彼は夜間部を兼任していて，校門まで行った所で，どぶに倒れこんで，それっきりさ——」　（冬の夜 32–33）

(1)の“抬了棺材”“挖了坑”“埋了”は継起的に起きた事象を表し，これらの“-了”は時間軸に沿って物語を前へ前へと押し進める機能を担っている。それに対し(2)では，下線部の５つの動詞・形容詞に後接するアスペクト助詞“-了”のうち，時間軸に沿って物語を前へ押し進める機能を担っているのは“他只苦笑了一下”[4]と“(他)到了學校門口”の２つのみである。その他の“他的脖子硬了，嘴巴也歪了”は，話し手が大学で彼に会った過去のその時点に観察された，眼前にある彼の状態であり，物語の時間は停滞している。また“(他)摔破了血管”は“他摔過一跤”と同様に，その彼の状態をもたらした原因である，さらなる過去に起きた出来事として述べられており，物語の時間は後退している。

完結相（perfective）は事象を包括的に捉えるため，複数の完結相が連続して使われた場合，それらの事象が時間軸に沿ってどんどん前進していき物語を前へ押し進めるという，継起的機能を担う。つまり(1)の“-了”はいずれも完結相として機能しているのである。一方，(2)の“-了”のうち，完結相の機能を担っているのは“他只苦笑了一下”と“(他)到了學校門口”である。その他の“-了”は継起的機能を担ってはいない。“他的脖子硬了,嘴巴也歪了”はその前に述べられた事象（“我還在學校看到他”）と同時であり，また“摔破了血管”は時間軸を遡っているため，いずれも完結相として機能していない。このような“-了”を，本稿ではパーフェクト（perfect）の“-了”として捉える。

小説などを観察してみると，(1)のようにいくつかの“-了”が連なってすべてが完結相として現れる例もあるが，むしろ(2)のように完結相の“-了”とパーフェクトの“-了”とが混在して現れる例が多い。先行研究では，“-了”をパーフェクトとして捉えることはまれである。それは，文脈を切り捨てた文からはそのことに気付きにくいからであると考えられる。そこで本稿では，テクストの中における“-了”について，今まであまり論じられていないそのパーフェクトの機能を中心に考察したい。

2. 完結相（perfective）とパーフェクト（perfect）

“-了”はテクストにおいて完結相の機能を担うこともあり，パーフェクトの機能を担うこともある。では，完結相とパーフェクトとはそれぞれどのような意味を持つのだろうか。

パーフェクトといえども，その視点アスペクト（viewpoint aspect）は基本的には完結相である。事象を包括的に捉えるという点ではパーフェクトと完結相とは共通している。しかしパーフェクトと完結相とは相違点もあり，テク

ストにおけるその機能を異にする。完結相は純粋に1つのアスペクトとして機能するのに対し，パーフェクトは純粋なアスペクトではなく，アスペクト的意味とテンス的意味とを併せ持つ複合体なのである（Smith 1997: 106）。

パーフェクトの基本的意味は具体的に言うと次のようである。まず，そのテンス的意味は，Reichenbach 1947 が定式化したように，発話時（SpT）の他に参照時（RT）があり，参照時より事象時（SitT）が常に先行することである。次に，そのアスペクト的意味は，先行事象が後続の参照時の状態・属性に関与しており，参照時において効力を持っていることである（Маслов 1984; 工藤 1995）。この点について，Smith 1997 では次のように述べている。パーフェクト構造は結果的状態の価値（resultant stative value）を有しており，パーフェクトが用いられた場合，その文全体が静的事象（stative）のアスペクト的意味を示すこととなり，状態を表すことになる（p. 106–107）。

ということは，パーフェクトにおける先行事象と後続参照時との関係は，単なる無機的な時間的前後関係ではなく，前提と結果という関係によって有機的に複合し，その複合体全体が1つの状態・属性を表すのである。つまり，パーフェクトは先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べる，ということである[5)]。

このように，パーフェクトと完結相とは異なる意味と機能を有するのである。次に，パーフェクトとして機能する“-了”を中心にその意味を考察する。

3. “-了”パーフェクトの意味

パーフェクトは，参照時の状態・属性と，それの前提となる先行事象という2つの要素から構成される。そこで，Маслов 1984 では発話の焦点の置き方により，パーフェクトを出来事パーフェクト（actional perfect）と状態パーフェクト（statal perfect）とに大別している[6)]。この2つのタイプのパーフェク

トの意味は，次のようにまとめることができる。

すなわち，先行事象に焦点を当ててそれが前景に押し出され，それと同時に参照時の状態・属性が背景に押しやられるのが，出来事パーフェクトとしての捉え方である。それに対し，参照時の状態・属性に焦点を当ててそれが前景に押し出され，それと同時に先行事象が背景に押しやられるのが，状態パーフェクトとしての捉え方である。換言すれば，出来事パーフェクトも状態パーフェクトも，いずれも先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べるパーフェクトをベース（base）とする。しかし両者は，そのベースの中からプロファイル（profile）されて認知される部分が異なるのである。

では，中国語のパーフェクトはどのようなものであろうか。Nedjalkov & Jaxontov 1988 では，中国語は出来事パーフェクトを持たず，状態パーフェクトしか持っていない言語であり，従って，状態パーフェクトと出来事パーフェクトとの意味が1つの形式を共有するという問題は当然起こらない，と述べている（p.37）。

しかし実際はそうではない。ここでは前掲(2)をもう一度挙げて，その中の“摔破了血管”を例として考えてみたい。

(2) 「他去世的前一天我還在學校看到他。他的脖子硬了，嘴巴也歪了——上半年他摔過一跤，摔破了血管——我看見他氣色很不好，勸他回家休息，他只苦笑了一下。我知道，他的環境困得厲害，太太又病在醫院裏。那晚他還去兼夜課，到了學校門口，一跤滑在陰溝裏，便完了——」

（冬夜 246–247）

このテクストにおける「血管」は，その後遺症（“他的脖子硬了，嘴巴也歪了”）から考えて，脳の血管を指していることが分かる。〈脳の血管が切れる〉という事態が起きたら，〈脳の血管が切れている〉という直接的で顕在的な結果状態を必然的に生じる。つまり，脳の血管が切れるという事象は，変化が内在して結果状態を生じるという素性を持つ事象である。参照時においてその結果状態が存在しているならば，参照時における結果状態（脳の血管が切れてい

る状態）に発話の焦点を当てた状態パーフェクトとしての捉え方と，参照時よりも先行する変化（脳の血管が切れたこと）に焦点を当てた出来事パーフェクトとしての捉え方とが可能である[7]。では(2)の“摔破了血管”はどちらの捉え方として現れているのだろうか。

(2)における参照時は，話し手が大学で「彼」と会った時である。脳の血管が切れたまま大学で講義することは不可能であり，参照時において，脳の血管が切れたことの直接的な結果状態（脳の血管が切れている状態）が既に存在していないことは明らかである。そのため，“摔破了血管”を状態パーフェクトとして捉えることは不可能である。その参照時において存在しているのは，脳の血管が一度切れたことによって生じた，間接的で非必然的な結果である後遺症（“他的脖子硬了,嘴巴也歪了”）である。つまりこの“摔破了血管”や“摔過一跤”は，参照時に残っている後遺症との関わりにおいて，それの原因となる出来事として振り返って述べられており，いずれも出来事パーフェクトとして機能しているのである。そして“上半年”（その年の前半）はそれらの出来事が起きた事象時を示している。この例から，“-了”が出来事パーフェクトを表すことが分かる。

先行研究のうち，“-了”を出来事パーフェクトとして扱う研究に梁紅 1999 がある。梁紅 1999 では，存現文のうち，“牆上掛{著/了}一幅畫。”に示されるような，“-著”と“-了”とが互いに置き換えられるものを「互換存現文」と称する。そして，「互換存現文」における“-著”を状態パーフェクトとし，“-了”を動作パーフェクトすなわち出来事パーフェクトとしている。しかし，“牆上掛了一幅畫。”における“-了”は果たして出来事パーフェクトと言えるだろうか。

先行事象をその中に含んだ1つの状態・属性を述べるパーフェクトのうち，その前提となる先行事象を主として述べる場合が，出来事パーフェクトである。一方，結果となる状態・属性を主として述べる場合が，状態パーフェクトである。もし，動作主や事象時などの要素を与えることにより，現

在の状態の前提となる先行事象を述べることを主要な目的とする発話ならば，それは出来事パーフェクトであると言える。例えば，(3)の“掛了”がそうである。

(3)　A：「欸,這房裏的氣氛好像不同了?」

B：「是啊,昨天我在牆上掛了那一幅畫。」

A：「あれ？ 部屋の雰囲気が何か変わったみたいだけど？」

B：「そうよ，昨日壁にあの絵を掛けたの。」

しかし“牆上掛了一幅畫。”という文だけならば，壁の現在の状態の原因である，〈壁に絵を掛けた〉という先行事象を述べているのではない。その先行事象を前提として，〈壁という場所に一枚の絵が掛かっている〉という，壁の現在の状態を述べているのである。つまりこれは“牆上掛著一幅畫。”と同様に状態パーフェクトとして解釈すべきである。

次に，存現文における“-了”の意味を，用例を通して見てみる。

(4)　前廳只擺了一堂精巧的紅木几椅,几案上擱著一套景泰藍的瓶尊,一隻觀音尊裏斜插了幾枝萬年青;右側壁上,嵌了一面鵝卵形的大穿衣鏡。

（遊園 207）

ロビーには一組の洗練されたセコイアの椅子とサイドテーブルしか置かれていない。テーブルの上に景泰藍の花瓶一セットが置かれており，観音瓶にはオモトが何本か斜めに生けてある。右側の壁には，楕円形の大きい鏡がはめ込まれている。

(4)において，“擺了”はロビーに椅子とサイドテーブルが置かれていることを述べており，“斜插了”は観音瓶にオモトが生けてあることを述べており，“嵌了”は壁に鏡がはめ込まれていることを述べており，それらはいずれも部屋の中の今の状態を述べている。それらの状態をもたらした先行事象（椅子とサイドテーブルをロビーに置いたこと，オモトを観音瓶に生けたこと，鏡を壁にはめ込んだこと）を述べているのではない。すなわち，“擺了”“斜插了”“嵌了”は，“-著”を用いた“擱著”同様に，この存現文において，結果状態を述べることに焦点を置く状態パーフェクトとして機能している。

また，次の(5)は，姿勢を示す動詞を用いた存現文の用例である。

(5)　屋子裏面,三把藤圈椅上都坐了人,屋主人胡浩、常來的林盛隆和一位稀客——余廣立。　(浮游 147)

部屋のなかに三脚ある籐椅子には，すべて人が腰掛けていた。この家の主胡浩と，よく来る林盛隆と，あとひとりは珍しい客——余広立だった。　(デイゴ 183)

(5)において“坐了”は，参照時と同時の状態（三脚の籐椅子に人が座っている状態）を主として述べており，時間軸を遡った先行事象（三脚の籐椅子に人が座ったこと）を述べているのではない。すなわち，“坐了”はこの存現文において結果状態を述べており，やはり状態パーフェクトとして機能している。

実際，テクストにおいて，“掛”“擺”などの位置を示す動詞や“坐”“站”などの姿勢を示す動詞が“-了”と共起したものが最も頻繁に現れるのは，存現文においてである。しかもそれは，結果状態がプロファイルされた状態パーフェクトの存現文である。従って，「互換存現文」における“-了”をすべて出来事パーフェクトとする梁紅 1999 の見解は適切ではないと言える。

しかし本稿は，存現文における“-了”はすべて状態パーフェクトであると主張しているのではない。例えば“家裏來了一位客人。”という文は，参照時における先行事象に由来した結果状態を述べる状態パーフェクトとしても，参照時の状態の前提となる先行事象を述べる出来事パーフェクトとしても解釈しうる。さらに，後続状態と関係づけられず，ある独立した出来事を述べる完結相としての解釈もありうる。そのいずれとして解釈されるかは文脈を切り捨てた一文からでは判断しにくく，テクストの中で総合的に判断しなければならない。つまり，たとえ存現文という構文に限定した場合でも，その“-了”が出来事パーフェクトという１つの機能しか担わないということはありえないのである。

また，“-了”が，いわゆる再帰動詞[8)]と共起した場合もその多くが状態

パーフェクトとなる。例えば(6)がそうである。

(6) 劉太太是一個四十上下的中年婦人,穿了一身黑緞子起紫團花的新旗袍,胸前繫著一塊藍布裙,頭上梳了一個油光的髮髻,臉上沒有施脂粉,可是卻描了一雙細挑的眉毛。 (歳除 52)

劉夫人は四十歳前後の中年女性で，紫色の丸い花が浮き上がった黒繻子の新品のチャイナドレスを着ていた。胸の前には青い布のエプロンをつけ，頭には光った髷を結い，顔には化粧をしていない。しかし，細くつり上がった眉が描いてある。

このテクストにおいて，“穿了”は〈チャイナドレスを着た〉という先行事象ではなく，〈チャイナドレスを身につけている〉という劉夫人の今の服装格好を述べている。この“穿了”や“梳了”“描了”は，やはり“-著”を用いた“繫著”と同様に，参照時における結果状態を述べる状態パーフェクトである。

また前掲(2)においては，“-了”が形容詞と共起して状態パーフェクトとして機能している。“他的脖子硬了,嘴巴也歪了”が，先行事象“摔過一跤”“摔破了血管”の間接的で非必然的な結果（後遺症）であることは前述した。しかしそれはまた，ある先行変化（首筋が硬直したこと・唇が歪んだこと）に由来する直接的で必然的な結果状態でもある。この発話は，時間軸を遡ってその先行変化を述べることを主要な目的とせず，話し手が彼と大学で会った時の，〈彼の首筋が硬直していて，唇も歪んでいた〉という参照時における目の前の結果状態を述べることを主要な目的としている。つまり，この2つの“-了”は出来事パーフェクトではなく，状態パーフェクトなのである。

また次の(7)においては，“-了”が点的変化動詞“死”と共起して，やはり状態パーフェクトとして機能している。

(7) 那天早上,我們發現喜妹的時候,以爲她眞的死了。她躺在園子裏,昏迷在一叢杜鵑花的下面,她的衣裙撕得粉碎,上體全露了出來,……。

(杜鵑花 108)

ある日の朝，私たちは喜妹を発見した時，もうてっきり死んでいると

思ってしまった。彼女は庭園のつつじの花の下で，意識を失って倒れていたのだった。衣服はビリビリに引きさかれ，上半身が露わになっていた。……。　（つつじ 50）

(7)の“以爲她眞的死了”は，例えば喜妹が急に倒れたことなどによって，〈喜妹は今この瞬間に死んだ〉と話し手が思ったのではない。あくまでも，話し手が喜妹を発見した時に眼前にあった喜妹の無惨な姿から，〈彼女は死んでいる〉と話し手が思ったことを述べているのである。つまりこの“死了”は，時間軸を遡った〈生きている→死んだ〉という先行変化を述べておらず，参照時における〈死んでいる〉結果状態を述べているのである。

Jaxontov 1988，梁紅 1999 では，いずれも中国語の状態パーフェクトの形式を“-著”とし，“-了”を状態パーフェクトの形式として認めていない。そもそも，参照時における結果状態を述べることは，状態パーフェクトを用いた発話の主要な目的である。結果状態は，先行変化を前提としているという点で単なる状態とは異なるものの，やはり一種の状態である。そして，当然のことながら，状態パーフェクトは状態を主として述べる表現である。

もし中国語が状態パーフェクト専用の形式を備えていないのであれば，状態パーフェクトを表そうとする時に，状態を表す“-著”が優先的に選択されるはずである。実際，前掲(4)“擱著”，(6)“繫著”で見たように，“-著”は確かに状態パーフェクトとして機能する。しかし前掲の数々の例にも見られるように，“-了”が状態パーフェクトとして現れることも多い。

中国語は，状態パーフェクトを表すための“-著”という形式を既に持ちながら，なぜさらに“-了”を必要とするのか。“-著”のみでは，中国語の状態パーフェクトを表現しきれないのか。また，“-了”は完結相の視点アスペクトを有し，事象を包括的に捉えるにもかかわらず，いかにして状態を述べる状態パーフェクトとしても機能するのか。以下各節では，これらの問題を考えていきたい。

4. 時間補語を伴う状態パーフェクト

Jaxontov 1988 は，時間補語を伴った場合は“-著”で状態パーフェクトを表せない，ということを指摘している。しかしその理由については説明していない。この理由について，まず次の 2 例を見てみよう。

(8)　今天她戴{著/了}一頂假髪。

今日彼女はカツラをかぶっている。

(9)　她戴假髪戴{*著/了}一個星期。

彼女はカツラを 1 週間 かぶっている / かぶっていた。

(8)は，先行事象（彼女がカツラを頭にかぶったこと）に由来する，今日に存在する結果状態（彼女がカツラをかぶっていること）を述べる状態パーフェクトである。(9)では，時間補語を用いてその結果状態の持続期間を規定している。この文が，完結相として解釈されるか，出来事パーフェクトとして解釈されるか，あるいは状態パーフェクトとして解釈されるかは，与えられる文脈による。すなわち，文脈が与えられていない(9)は，3 つの可能性があるのである。しかしそのいずれの場合でも，“-著”を用いることができない。つまり，たとえ参照時において結果状態がまだ存在し，発話の焦点をその結果状態に当てて状態パーフェクトとして述べようとしても，状態を捉える“-著”でそれを表すことができず，その代わりに“-了”で表すのである。(8)と(9)との比較から，同じく結果状態でありながら，時間補語の有無により“-著”との共起関係が変わることが分かる。

そもそも，中国語の補語は時間補語も含めて，動詞句の構成要素である[9)]。動詞句が補語を含んでいるかどうかで，動詞に内在するアスペクト的意味が変化し，アスペクト形式との共起関係も変わる。例えば，結果補語を含んだ“殺死”や動量補語を含んだ“看一眼”は，いずれもそれらを含まない“殺”

“看”に内在する持続の意味が消えてしまい，瞬間的に成立する点的事象へと変化する。そこで不完結相（imperfective）のアスペクト形式“-著”や“在”（進行相）と共起できなくなるのである（劉綺紋 2002b）。

補語のうち，時間補語は時間量的規定を動詞句に与える補語である。時間補語を伴っている事象は，それ自体の始発点も終結点も含めた，ひとまとまり性を持つ閉じた事象になる。従って，事象の始発点も終結点も除いた，その内部のみを捉える不完結相の捉え方をする“-著”と矛盾するのである。ゆえに，時間補語を伴っている事象は，いかなる場合でも“-著”と共起できない。例文(9)で“-著”を用いることができないのも，そのためである。

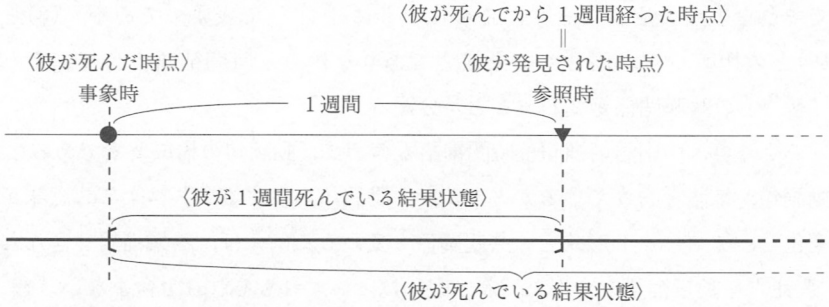
では，時間補語を伴うことによって閉じている事象は，参照時が結果状態の中に位置する状態パーフェクトをどのように表すのだろうか。例えば次の(10)を見てみよう。

（10）他被發現時，已經死了一個星期。

彼が発見された時には，死んで既に１週間経っていた。

(10)において，参照時（彼が発見された時）までの死んでいる結果状態は，1週間という時間量的規定を与えられたことにより，〈1週間死んでいる〉という閉じた結果状態となる。しかしそれと同時に，参照時以後も彼は当然死んでいるため，その死んでいる結果状態は，参照時（彼が発見された時）を超えてさらに続いていく。このことを図式化すると，(11)のようになる。

(11)



そこで，“-了”が参照時までの閉じている結果状態を包括的に捉えて，参照時をその中に含んだ結果状態を焦点化して述べる状態パーフェクトとして用いられる。つまり，時間補語によって時間量が規定されている〈閉じている結果状態〉は，その結果状態の全体量ではなく一部分であるならば，参照時が結果状態の中に位置することになり，状態パーフェクトとして捉えられるのである[10]。

次に，用例を通して同様な状態パーフェクトの例を見てみよう。

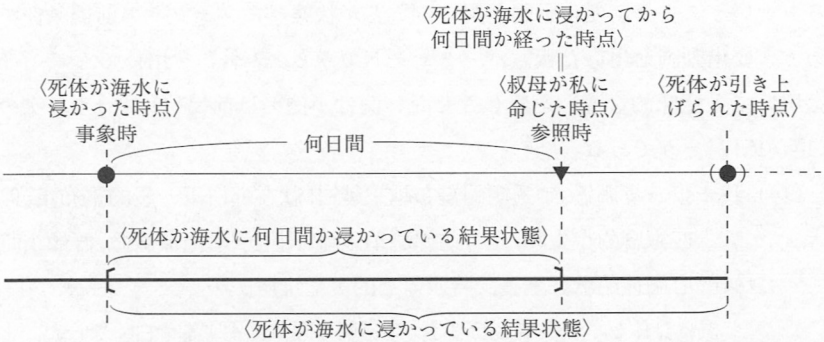
（12）舅媽叫我去認屍的時候，王雄的屍體已經讓海水泡了好幾天了。

（杜鵑花 91）

叔母が私を確認に行かせた時には，死体は海水でふやけてもう何日もたっていた。（つつじ 36）

（12）における参照時は，王雄の死体を確認しに行きなさいと叔母が私に命じた時である。〈王雄の死体が海水に浸かっている〉という結果状態は，時間補語“好幾天”（何日間）の時間量的規定により，その参照時の数日前から続いていたことを表している。さらに参照時においても，王雄の死体はまだ引き上げられておらず，海水に浸かっている結果状態はなおも続いていた[11]。そこで参照時は結果状態の中に位置することになる。このことを図式化すると，（13）のようになる。

（13）



“-了”はこのテクストにおいて，参照時までの〈死体が海水に何日間か浸かっている〉結果状態を包括的に捉えると同時に，参照時をその中に含んだ〈死体が海水に浸かっている〉結果状態に焦点を当てて述べており，状態パーフェクトとして用いられるのである。

このように，時間補語を伴っている結果状態は閉じているため，その状態パーフェクトは，事象の内部のみを捉える“-著”で表すことができず，事象を包括的に捉える“-了”で表すのである。

5. 変化動詞の状態パーフェクト

5.1. “-了”でしか表せないもの

前引の Jaxontov 1988，梁紅 1999 はいずれも，中国語の状態パーフェクトは“-著”で表すとしていた。しかし，状態パーフェクトのうち，“-著”で表せずに“-了”で表さなければならないものは非常に多い。この節では，“-了”でしか表せない状態パーフェクトのうち，変化動詞を用いたものについて考えたい。

状態パーフェクトは，先行変化に由来する結果状態に焦点を当てて述べる。ということは，変化動詞を用いることが状態パーフェクトの前提条件である。変化動詞を用いた状態パーフェクトのうち，“-著”を用いても“-了”を用いても意味的な違いを感じさせない例は，例えば前掲(4)–(6)や，次の(14)(15)がそうである。

(14) 我一步一步挪近，半透明的畫布越來越白，就在那白玉一般的畫布上，停著一匹六腳的小生物，全身彷彿琥珀玉雕，兩尾觸鬚顫顫微微，好像小時候醉心嚮往的歌仔戲裏武將頭盔上的美麗雉尾…… （長廊 79）

僕は身体を一步一步と近づけ，半透明な画布はますます白くなった。ま

さしくその白い玉のような画布の上に，六本足の小さな生き物が停まっていた。全身が琥珀玉の彫刻のようで2本のひげが微かに震えていた。それは，子供の頃に心を奪われていた「歌仔戯」の中に出てくる武将の冠に挿している美しい雉の尾のようだった……

（15）剛一進胡同，我就看見惠安館的瘋子了，她穿了一身絳紫色的棉襖，黑絨的毛窩，頭上留著一排劉海兒，辮子上紮的是大紅絨繩，她正把大辮子甩到前面來，兩手玩弄著辮梢，楞楞的看著對面人家院子裏的那棵老洋槐。（城南 38）

胡同に入るや，恵安館の狂女が眼に入った。彼女は蝦茶色の綿入れを着て，黒いもっこりとした布靴をはき，前髪をおろしていた。そして赤い毛糸のリボンをつけた大きなお下げを前に回し，両手で毛先をもてあそびながら，ぼんやりと向かいの家の庭にあるニセアカシアの老木を見ていた。（旧事 24）

(14)の“停”（虫がある場所に停まる・休む）も，(15)の“穿”（着る），“留”（髪を長く伸ばす）も変化動詞である。“停著”“穿了”“留著”はいずれも結果状態を述べる状態パーフェクトである。これらの“-著”と“-了”とは互いに置き換えても意味的な違いを感じない。すなわち，これらの変化動詞の結果状態は，“-著”によっても“-了”によっても捉えることができるのである[12]。このような変化動詞は，例文(4)(5)(6)(14)(15)で既に挙げたものの他に，例えば“站，蹲，住，佔領，停車，開門，開燈，關門，關燈，包，綑，種，寫，畫，雕，蓋章，化粧，題字，升旗，埋，挖，疊，存”などがある。

一方，上述の変化動詞とは対照的に，例えば次の(16)–(18)などの変化動詞を用いた場合，その状態パーフェクトはいずれも“-了”を“-著”に言い換えることができない。

（16）他撐著一把油紙傘，紙傘破了一個大洞，雨點漏下來，打到余教授十分光禿的頭上，冷得他不由得縮起脖子打了一個寒噤。（冬夜 241）

手にした番傘にも大きな穴があいていて，そこからしたたる雨滴が，余教授のたっぷり禿げあがった頭をうつ。冷たさに彼は思わず首を縮めて，身ぶるいをした。（冬の夜 27）

(17) 我進到他們的房子裏,看見客廳裏還是新房般的打扮。桌子、椅子上堆滿了紅紅綠綠的賀禮,有些包裹尚未拆封。 (一把青 29)

私が彼らの家に入ると，居間は依然として新婚夫婦の部屋のように飾られていた。テーブル，椅子の上に，赤やら緑やらの結婚祝いがいっぱい積んであった。まだ封を切っていない包みもあった。

(18) 蕭紅美穿了一件石榴紅的透空紗旗袍,兩筒雪白滾圓的膀子連肩帶臂肉顫顫的便露在了外面,那一身的風情,別說男人見了要起火,就是女人見了也得動三分心呢。 (金大班 85)

石榴のように赤い，透き通る紗のチャイナドレスを着た蕭紅美は，色白で丸みを帯び，ぷるぷるした両腕を肩からむき出しにしていた。その色っぽさを見れば，男なら思わずそそられるし，女だっていくらか心を動かされるほどだ。 (最後 279)

“-了”は変化を含んだ先行事象を包括的に捉えるため，発話において，先行事象をプロファイルしたり結果状態をプロファイルしたりすることができる。すなわち，出来事パーフェクトとしても状態パーフェクトとしても機能する。ではこれらの例は，状態の前提となる変化がプロファイルされている出来事パーフェクトなのだろうか。それとも，変化した結果がプロファイルされている状態パーフェクトなのだろうか。

まず，(16)において主として述べているのは，余教授がさしている油紙の傘に〈大きな穴が開いている〉という今の状態であり，その状態をもたらした，〈穴が開いた〉という先行事象ではない。(17)において主として述べているのは，〈テーブル，椅子の上に結婚祝いの贈り物がいっぱい積んであった〉という，話し手が彼らの家に入った時に目の前に広がっていた状態であり，その状態をもたらした，〈贈り物を積んでいっぱいになった〉という先行事象ではない。また(18)において主として述べているのは，〈蕭紅美のぷるぷるした両腕が肩から出ていた〉という参照時における眼前の状態であり，蕭紅美がチャイナドレスを着る過程の中で，〈両腕を袖口から出した〉という先行事象ではない。すなわち，これらの“-了”はいずれも前掲(7)“以爲她眞的

死了”の“-了”と同様に，参照時における結果状態をプロファイルした状態パーフェクトであり，時間軸上を遡ってその状態をもたらした原因となる出来事をプロファイルした出来事パーフェクトではない。

これらの例から，変化動詞の中には，その結果状態を“-著”によって捉えることができず，“-了”によってしか捉えることができないものもあることが分かる。同様な変化動詞，例えば“到, 來, 結婚, 電腦當機, 鐘停, 雨停”などの点的変化動詞や，“脫, 卸妝, 解鞋帶, 降旗, 生孩子, 殺人[13)]”などの限界変化動詞や，“-滿”“-在”“-成”“-著（zháo）”などの結果補語を含むことによって点的変化動詞になっている動詞などは，いずれもそうである。

以上のことから，中国語では，変化動詞を用いた状態パーフェクトは，“-著”でも“-了”でも表せるもの以外に，実は“-了”でしか表せないものも多く存在することが分かった。次節では，その原因について考えたい。

5.2. 変化動詞本来の意味素性との関係

結果状態の中には，“-著”でも“-了”でも捉えられるものと，“-了”でしか捉えられないものとがある。このようなズレが生じる原因について，本稿では次のように考える。すなわち，変化動詞に内在する意味成分はすべて均等というわけではなく，本来的に意味的焦点が固定されている変化動詞もあるからである。

変化動詞は，持続過程が内在するかどうかによってまず2種類に分けられる。持続過程を持たずに，瞬間的に成立しそれとともに変化が起きて結果状態を生じるものを〈点的変化動詞〉と呼ぶ。一方，持続過程を持ち，その過程が終了するとともに変化が起きて結果状態を生じるものを〈限界変化動詞〉と呼ぶ。そして，変化動詞に内在する意味成分は，点的変化動詞であれば〈変化〉と〈結果状態〉という2つの意味成分を有する。限界変化動詞であれば〈行為〉と〈変化〉と〈結果状態〉という3つの意味成分を有する。

このように，本稿では，〈変化〉という意味成分が内在する事象でありさえすれば，必ず〈結果状態〉という意味成分をも有すると考える。それは，変化が起きれば必然的に結果として新たな状態を生じるからである[14)]。では，“死”“破”“到”“來”などの変化動詞の結果状態は，なぜ“-著”で捉えられないのだろうか。それには，まず“-著”の意味を考えなければならない。

“-著”は出来事や状態を不完結的に捉える。すなわち，それらの始発点も終結点も切り離して捉えるのである。それは“-著”が結果状態を捉える場合も同様であり，結果状態の始発点となる先行変化も，また結果状態の終結点も切り離すのである。すなわち，“-著”で捉えられるような結果状態は，不完結的な捉え方をすることができる結果状態でなければならない。逆に言えば，“-著”で捉えられないような結果状態とは，不完結的な捉え方をすることができない結果状態なのである。

では，不完結的な捉え方をすることができない結果状態とは，一体どのようなものだろうか。それは，その結果状態が，その始発点や終結点の少なくともそのいずれかと切り離すことができないような性質を持つものである。

ここではまず，第4節の時間補語を伴う結果状態を想起していただきたい。そのような結果状態は，時間量的規定を与えることにより，その始発点も終結点も含まれる，左右ともに閉じている結果状態ということになる。

しかし，この“死了”“破了”“到了”“來了”によって表される結果状態は，量的規定が与えられた，左右ともに閉じている結果状態ではない。この種の結果状態は，“-了”で先行変化を捉えることによって表され，しかも先行変化を捉えることによってしかそれを表すことができない。ということは，この種の結果状態は，それを始発点となる先行変化と切り離すことができないのである。このような結果状態は，左閉じ（右開き）の結果状態なのである。

では，先行変化から切り離してはならない，左閉じの結果状態を持つ変化動詞とは，どのようなものだろうか。それは，その意味的焦点が本来的に（行為から）変化までの部分に固定されている変化動詞である[15)]。具体的に

言えば，このような変化動詞における複数の意味成分の中で，〈(行為から)変化まで〉という意味成分が，その主要的な意味成分なのである。その他の意味成分である〈結果状態〉は，二次的で付随的な意味成分なのである。

二次的で付随的な結果状態は，先行変化から切り離して，独立した1つの開いている状態として捉えることができない。たとえ発話において，述べようとするのがその結果状態だったとしても，それをあくまでも先行変化に由来する状態として，すなわち先行変化を切り離さずに，その中に含んで述べなければならないのである。“死”“破”“到”“來”などもそのような動詞であり，それらの動詞が持つ個々の意味成分はその重要性が対等ではないため，その結果状態は“-著”で捉えることができず，“-了”でしか捉えることができないのである。

一方，“-著”によっても“-了”によってもその結果状態を捉えられる変化動詞も多くある。“坐”“穿”などがそうである。このような変化動詞は，意味的焦点が本来的に固定されていない。すなわち，主要的な意味成分もなければ，二次的で付随的な意味成分もなく，個々の意味成分は対等である。ゆえに，その結果状態は，不完結的な捉え方をする“-著”を用いることによって，それを1つの開いている状態として捉えることもできる。また，先行事象を包括的に捉える“-了”を用いることによって，先行変化を切り離さず，先行変化を中に含んで左閉じの結果状態として捉えることもできるのである。

このように，中国語の変化動詞の中には，意味的焦点が本来的に（行為から）変化までの部分に固定されているものがある。そのような動詞においては，結果状態がその変化動詞の二次的で付随的な意味成分に過ぎないため，発話においてその結果状態を述べる場合，あくまでも先行変化を切り離さずにそれを述べなければならない。従って，不完結的な捉え方をする“-著”を用いることができず，変化を切り離さずに捉える，すなわち先行事象を包括的に捉える“-了”を用いて，その状態パーフェクトの機能を果たすのである。

6. 本来的に状態・属性を示す事象の状態パーフェクト

前節では，変化動詞の状態パーフェクトについて論じた。本節では，本来的に状態・属性を示す事象が状態パーフェクトを表す場合について考えたい。

前掲例文(2)“他的脖子硬了，嘴巴也歪了”において，“-了”が状態パーフェクトを表していることは既に述べた。これらの“-了”をもし“-著”に置き換えた場合，必ずしも状態パーフェクトとして解釈されるとは限らず，生まれ付きの属性や一時的な状態・表情としての解釈もありうる。また，形容詞に限らず，心的動詞や状態動詞“有”などの，状態・属性を本来的に示すような述語と共起した場合でも，“-了”と“-著”とでは時々その解釈を異にする。

例えば，“-著”を用いた(19)(20)は状態パーフェクトとして解釈できず，それに対し“-了”を用いた(21)(22)はいずれも状態パーフェクトとして解釈される。

(19) 在這一刹那，她是眞心愛著孩子的。 (連環套 46)

この瞬間には，彼女は心から子供を愛していた。

(20) 街上小販遙遙搖著博浪鼓，那懵懂的「不楞登……不楞登」裏面有著無數老去的孩子們的回憶。 (金瑣記 146)

街では物売りが遠くでぺんぺん太鼓を鳴らしている。そのトトン……トトンというかすかな音には，過ぎさった子どものころの無数の思い出がある。 (鎖 21)

(21)「每次我總得替她在眼塘子上按摩百把下，她還一徑嫌少呢。萬夫人有了眼袋子，不塗眼圈膏是遮不住的。」 (秋思 187)

「万夫人の目の回りはいつも百回ぐらいはマッサージしてあげてますけど，それでも足りないと言うのよ。万夫人はひどい目のたるみができてしまっていて，分厚い化粧でもしないと隠せませんよ」

（22）他看見吳柱國那杯茶已經涼了，便立起身，一拐一拐的，去拿了一隻暖水壺來，替吳柱國斟上滚水，一面反問他：……　（冬夜 250）

そして呉柱国の茶がさめてしまっているのを見て，立ち上がると，びっこをひきながら魔法壜を取ってきて，湯をいっぱいにつぎ足し，そしていい返した。……　（冬の夜 36–37）

(19)は恒常的属性とは異なる一時的状態を表し，その状態の時間性を際立たせている。(20)は文学的表現である。一方，(21)“萬夫人有了眼袋子”は，万夫人の目の下にひどいたるみができている状態を述べており，先行変化を前提とした結果状態として表現されている。(22)“茶已經涼了”は，お茶が冷めているという状態を述べており，そのお茶の熱い状態から冷めた状態への先行変化を前提とした結果状態として表現されている。

さらに，形容詞・状態動詞以外の場合でも，その事象が本来的に安定的な状態・属性として認識される場合は，“-了”と“-著”とではやはりその解釈を異にする。例えば(23)を例として説明してみよう。

（23）書房向北面開了一排窗，面積也不小，晴朗的日子可以遙望臺北盆地邊緣的山嶺餘脈，或許父親當初選這一間做書房，就爲了這個原因。

（晩風 10）

書斎は北側に向かって一列の窓が作られており，面積も小さくない。晴れ渡った日にはここから台北盆地周辺の山脈を眺めることができる。父親が当初この部屋を選んで書斎にしたのは，それが原因だったのかもしれない。

(23)において“書房向北面開了一排窗”は，先行事象（窓を作ること）を前提とした，結果状態（書斎の北側の壁に一列の窓が作られていること）を述べる状態パーフェクトである。この文で，“-了”を用いずに“-著”を用いると，状態パーフェクトとしてよりも，〈部屋に窓がある〉という単なる状態・属性として解釈されやすい。それは，部屋に窓が作られていることは認知上，先行変

化から来た結果状態としてよりも，むしろ一種の恒久的な状態・属性として認識されやすいからである。

不完結的な捉え方をする“-著”は，状態・属性に変化を与えないため，本来的に状態・属性を示す事象に“-著”を用いた場合，先行変化から来た結果として認識されにくい。つまり，“-著”で捉えている事象を，結果状態として認識するか単なる状態として認識するかは，その事象に変化が内在するか否かという事象本来の性質によるのである。“-著”は本来，先行事象を切り離して結果状態を述べるため，結果状態の前提となる変化つまり先行事象は，ただ含意されているに過ぎないのである。

本来的な状態・属性を，結果状態として述べようとするならば，その結果状態の始発点となる先行変化を与える操作が必要である。“-了”が状態・属性と共起すると，その状態・属性に変化を与え，結果状態としての新たな状態・属性の開始を表すことになる。そして，“-了”によって述べられているその状態・属性は，単なる状態・属性ではなく，先行変化に由来する結果としての状態・属性として認識されるのである。

つまり，本来的に状態・属性を示す事象を状態パーフェクトとして述べるのは，不完結的な捉え方をする“-著”ではなく，完結的な捉え方をし，状態・属性に変化を与える“-了”なのである。

7. おわりに

以上に述べてきたように，テクストにおいて，“-了”は完結相の他に，パーフェクトの機能も有する。完結相として現れる場合，“-了”は1つのアスペクトとして機能し，独立した出来事を述べており，事象を時間軸に沿って前へ押し進める継起的機能を担う。それに対し，パーフェクトとして現れる場合，“-了”はアスペクト的意味とテンス的意味とを併せ持つ複合体とし

て機能し，状態・属性を述べる。この状態・属性は，単純な状態・属性ではなく，先行事象をその中に含んだ１つの状態・属性である。そのような“-了”のパーフェクトのうち，参照時における〈結果となる状態・属性〉がプロファイルされると，物語の時間が停滞し，状態パーフェクトとして機能する。一方，時間軸を遡った〈前提となる先行事象〉がプロファイルされると，物語の時間が後退し，出来事パーフェクトとして機能する。

以上のことから，中国語には出来事パーフェクトが存在せず，従って出来事パーフェクトと状態パーフェクトとが１つの形式を共有することはない，という Nedjalkov & Jaxontov 1988 の指摘は妥当ではないことが分かる。また，“-著”のみを状態パーフェクトとする Jaxontov 1988，梁紅 1999 の見解も不十分だと言える。中国語の状態パーフェクトは，“-著”で表せずに“-了”で表さなければならないものも多いのである。

しかしそれにしても，“-了”は完結相の視点アスペクトを有し，事象を包括的に捉えるはずなのに，どのようにして状態を述べる状態パーフェクトとしても機能するのか。

結果状態の中には，開いているものもあれば，左右ともに閉じているものもある。また，始発点となる先行変化を切り離してはならない，左閉じのものもある。そのいずれであるかにかかわらず，先行事象を前提とした結果状態に焦点を当てて述べるものである限り，それは状態パーフェクトとなる。

開いている結果状態とは，その結果状態から始発点も終結点も切り離しており，すなわち結果状態の前提となる先行変化はただ含意されているだけのものである。このような結果状態を述べる状態パーフェクトは，事象を不完結的に捉える“-著”で表す。しかし，左右ともに閉じている結果状態や，左閉じの結果状態は，“-著”で表すことができない。

左右ともに閉じている結果状態とは，その結果状態から始発点も終結点も切り離さない結果状態である。時間補語を伴っている場合，時間量的規定が与えられることにより，その結果状態は閉じていることになる。前掲(10)

(12)で示したように，その閉じている結果状態が，結果状態の全体量ではなく一部分であるならば，“-了”はその状態パーフェクトを表すことができる。

また，始発点となる先行変化を切り離してはならない結果状態は，語彙の制約から来るものである。“死”“破”“到”“來”などの変化動詞の結果状態は，その語彙の二次的で付随的な意味成分である。この場合，先行変化を捉えることによってしかその結果状態を述べられないため，“-了”が左閉じの結果状態を表し，その状態パーフェクトの機能を果たすのである。

また，本来的に状態・属性を示す事象を用いて，その状態・属性を結果状態として捉えるためには，その始発点となる先行変化を与える操作が必要である。この場合も，“-了”がその状態パーフェクトの機能を果たすのである。

以上のことから，“-著”のみでは，中国語の状態パーフェクトを表現しきれず，結果状態の在り方によって，その状態パーフェクトを“-了”で述べたり“-著”で述べたりすることが分かった。

一方，状態パーフェクトのうち，例えば前掲(4)(5)(6)(8)(14)(15)のような，“-了”と“-著”とを互いに置き換えても意味的な違いを感じさせないものがある。それはそれらが，先行変化を切り離さずに捉えてもいいし，あるいは，結果状態そのものを不完結的に捉えてもいい結果状態だからである。

最後に，存現文における“-了”の意味についてもう一度触れておきたい。木村 1997 では，“-著”の存現文を「典型的な存在表現」とする。それに対し，“-了”の存現文は「典型的な存在表現から幾分逸脱した性格をもつもの」であるとする。なぜなら，“-了”の存現文には，“靠牆種了幾竿玉屏蕭竹。”という存在を表す例もあるが，その場合でも「典型的な状態表現や存在表現とは異なった振る舞い方をする」からだという。そしてその理由は，“-著”の存在表現にはない，数量表現の構文的制約があることや，語気助詞“呢”との共起が不自然であること，だという。また，“-了”の存現文につ

いて，その「典型的な用法は……出現または消失の既然たる実現を表す」とする。

存現文における存在表現の“-了”は，数量表現を必要とする場合もあるが，必要としない場合もある。例えば，(24)(25)では数量表現が使われていない。

（24）會場門口張貼了海報。（彩鳳 42）

会場の入り口にはポスターが貼ってある。（夢 129）

（25）這間廟竟然掛了耶穌基督的畫像!

この廟はなんとイエスキリストの絵を掛けている！

また，“呢”との共起も不自然とは限らない。例えば“我的座位上坐了人呢。”（私の席に人が座っている。）は自然な文である。

“-了”と“-著”とは，結果状態に対してその捉え方を異にする。そのため，その結果状態の在り方によって，“-了”でしか述べられなかったり，あるいは“-著”でしか述べられなかったりする。しかし，“-了”も“-著”も結果状態を述べる状態パーフェクトの機能を担う点においては変わりはない。

テクストを観察してみると，存現文における“-了”は確かに，後続状態に関係づけられていない独立した出来事を述べる完結相としても機能する。それ以外にも，参照時の状態の前提となる先行事象を述べる出来事パーフェクトとしても機能する。しかし最も多いのは，先行事象に由来する結果状態を述べる状態パーフェクトの例である。存現文における“-了”が状態パーフェクトとして最も多く用いられるという事実を考慮せず，存現文における“-了”の状態表現や存在表現を「逸脱した性格をもつもの」とする木村 1997 には疑問を感じる。

さらに，前掲の数々の例から，存現文に限らず，先行事象を切り離さずに主としてその結果状態を述べる“-了”が非常に多いことは明らかである。例えば，(2)(7)(8)(10)(12)(18)(21)(22)はいずれも存現文ではないが，“-了”が状態パーフェクトとして機能しているのである。

このように，状態パーフェクトとしての機能は，“-了”の非常に重要な機能の１つなのである。“-了”は事象の完結のみを表すわけではない。事象に変化が内在していれば，変化した後の結果状態をプロファイルして述べることも多いのである。

以上に述べてきたように，テクストにおける“-了”の機能は，先行研究によって既に指摘されている完結相（perfective）以外に，先行事象をその中に含んだ１つの状態・属性を述べるという，パーフェクト（perfect）としての機能も極めて重要であると言わねばならない。

〔注〕

1) 本稿は，“-了”は動詞に後接しても形容詞に後接しても，同様なアスペクト的操作を行っていると考え，それらを同一のアスペクトマーカーであると考える。

2) 〈視点アスペクト〉（viewpoint aspect）の定義は Smith 1997 に基づく。すなわちそれは，文法的形態素によって表されるアスペクトである。そして，事象に内在するアスペクト的意味である〈事象アスペクト〉（situation aspect）とは異なるものである。詳しくは Smith 1997，劉綺紋 2002a 参照。

3) 本稿で引用した用例の下線はすべて引用者による。また，出典を明記していない日本語訳はすべて拙訳である。

4) “他只苦笑了一下”について，松永訳では「苦笑いしていただけだった」と，シテイル形（継続相）を用いて物語の時間が停滞しているように訳している。しかし，中国語の原文の時間はここで停滞しておらず，時間軸上に沿って前進しているのである。すなわち，原文のアスペクト的意味を忠実に反映して日本語に訳すならば「苦笑いしただけだった」になるのである。

5) 春木 2001 による，フランス語の語りの「複合過去が，過去の事態をその中に含んだ一つの状態，属性を述べ」る，という説明に基づく。

6) actional perfect と statal perfect という２つの用語は Maslov 1988 に基づく（p.64; p.65）。Nedjalkov & Jaxontov 1988 などではそれぞれ perfect と resultative と呼んでいる。Maslov の用語の日本語訳について，Маслов 1984 の菅野訳では，それぞれ動作ペルフェクトと状態ペルフェクトとに訳している（p.117）。なお，状態パーフェクトは結果相と呼ばれることもある（例えば梁紅 1999）。劉綺紋 2002a，2002b などでは菅野訳に基づき，動作パーフェクトと状態パーフェクトを用いた。本稿では，動作パーフェクトという呼称を出来事パーフェクトに改める。その理由は，次のようである。このようなパーフェクトは，その焦点が〈先行事象〉に置かれるパー

フェクトである。その先行事象は〈動作〉とは限らず，〈動作〉をも含めたあらゆる動的事象（出来事）なのである。さらに厳密に言えば，実は動的事象（出来事）のみならず，静的事象（状態）もありうる（Маслов 1984: 118; Maslov 1988: 65）。本稿では，〈動作〉よりも範囲が広く，かつ状態パーフェクトの〈状態〉と対立するという意味で〈出来事〉という用語を用い，これを〈出来事パーフェクト〉に改める。

7） 状態パーフェクトと出来事パーフェクトとは，プロファイルされている部分が異なるため，両者における〈参照時の状態・属性〉と〈先行事象〉との性質も異なる。参照時の状態・属性がプロファイルされている状態パーフェクトにおいては，それは先行変化によって生じた直接的で顕在的で必然的な〈結果状態〉でなければならない。それに対し，参照時の状態・属性がプロファイルされず，先行事象がプロファイルされている出来事パーフェクトにおいては，その参照時の状態・属性には2つの可能性がある。1つは，先行変化によって生じた〈結果状態〉の場合である。もう1つは，変化が内在しない事象の完結によってもたらした，間接的で潜在的で非必然的な影響・形跡・効力などという〈広義の結果状態〉の場合である。換言すれば，〈変化〉が内在する先行事象であれば，状態パーフェクトと出来事パーフェクトという2種類の捉え方が可能である。それに対し，〈変化〉が内在しない先行事象であれば，出来事パーフェクトという1種類の捉え方のみ可能である（Маслов 1984; Maslov 1988; Nedjalkov & Jaxontov 1988; 劉綺紋 2002a）。

8） 再帰動詞とは，行為の働きかけの対象が動作主の一部や所有となり，動作主の対象に対する行為の働きかけが，対象に変化を引き起こすと同時に，その変化が動作主に帰ってくることを意味する動詞である。例えば〈着る〉〈背負う〉がそうである（森山 1988 参照）。中国語の“穿”“揹”“化粧”などの変化動詞も同様な性質を持つため，同様に〈再帰動詞〉と呼ぶことができる。

9） 中国語の期間表現には〈時間補語〉と〈連用修飾語〉という2種類がある。両者は統語構造が異なる。時間補語は動詞句の構成要素であるのに対し，連用修飾語は動詞句の構成要素ではなく文に直接支配される要素である。このことは，否定辞テストを用いて明らかにすることができる。“她戴假髪沒戴一個星期。”のように，時間補語を用いた場合，彼女がカツラをかぶっていた期間は1週間までいかないという意味を表す。つまり，期間が否定の作用域内にあるのである。一方，“她一個星期(都)沒戴假髪。”のように，連用修飾語を用いた場合，彼女がまる1週間カツラをかぶっていない，という意味を表す。つまり，期間が否定の作用域内にないのである。〈時間補語〉と〈連用修飾語〉という2種類の期間表現は統語構造が異なるため，“-了”と“-著”との共起関係を異にするのである（劉綺紋 2002b 参照）。

10） このようなパーフェクトは継続パーフェクト（continuous perfect）の特徴をも持っている。継続パーフェクトとは，期間表現と共起することにより，参照時以前

に事象（出来事・状態）が始まると同時に，その同一の事象が参照時においても続いているパーフェクトである。例文(10)(12)では，参照時において続いているのは，先行事象に由来する〈結果状態〉であるため，継続パーフェクトであると同時に，状態パーフェクトでもある。

11） 先行研究ではしばしば語気助詞“了”があればその事象がさらに続いていくことを表し，それがなければ続いていかないことを表すとする。しかし，テクストを観察してみると，その事象が参照時を超えて続いていくことを表すためには必ずしも語気助詞“了”を必要としないことが分かる。例文(12)では語気助詞“了”を伴っているが，それがなくてもその結果状態が参照時を超えて続いていくことを表す。

12） ここで言うのは，これらの変化動詞を用いる場合，“-著”でも“-了”でもその結果状態を捉える〈可能性〉がある，ということである。これらの変化動詞を用いさえすれば，いかなる状況においても“-著”と“-了”とが置き換えられる，ということではない。副詞，構文，文脈などの要因が，その結果状態の在り方を変化させるため，“-了”か“-著”のいずれか一方でしかその結果状態を捉えられない場合も多くある。例えば，“劉荃覚得很奇怪,這時倒還開著門。”（赤地 14）（劉荃は変だと思った。こんな時間にまだ開いている。）という例においては，その前後の状態・状況が変わらないという意味を表す副詞“還”（まだ，依然として）と共起しているため，“-著”しか用いることができない。本稿では，“-了”や“-著”の結果状態の表現について，語彙の制約という角度から論じている。語彙以外の問題については，今後の課題としたい。

13） “殺(人)”の結果状態は，行為の働きかけの対象が変化した後のそのありさまを示す，受身形や存現文に現れる。例えば，殺された人の死体を初めて目にした場合，“他被殺了。”（彼は殺されている。）というように受身形を用いるか，“這裏有一個人被殺了。”（ここに人が殺されている。）というように受身形存現文を用いる。また，人が殺されていることを前もって知っていて，それから死体の場所などを確認する場合，受身形ではない存現文を用いる。例えば，警察官が現場検証を行っている場合，事件現場の居間に入り，眼前にある 1 体の死体を確認した時に，“起居室殺了一個人。”（居間に 1 人が殺されている。）と言い，そして，寝室に入り，眼前にある 2 体の死体を確認した時に，“還有,臥室殺了兩個人。”（まだある。寝室に 2 人が殺されている。）と言うように。

14） このことを裏返せば，結果状態を生じない事象とは，変化が内在しない事象だということである。例えば，“看一眼”“打一個飽嗝”“看一場電影”“吃一頓飯”“洗個澡”などは必然的終結点が規定されているが，変化が内在せず結果状態を生じない事象である（劉綺紋 2002a）。また，“*死著”が言えずに“門開著”が言える理由について，本稿は井上 2001 とは考え方が異なる。

井上 2001 では，その理由を次のように述べている。「〈死ぬ〉は，［＋生］の状態と［－生］の状態との境界として存在する点的事象であり，それ自体には何ら継続的な局面はない（実際，「*三時間死んだ」とは言えない）。一方，〈門が開く〉は，［－開］から［＋開］になるという変化の局面と，［＋開］の状態が維持されるという状態維持の局面とを持つ（「三時間門が開いた」と言える）」，としている。

すなわち井上 2001 では，日本語における事象と期間表現との共起関係を用い，それをそのまま中国語の事象に持続があるかどうかを判断しているのである。これでは，「三時間時計が止まった」が言えることから，〈時計が止まる〉は持続の局面を持つことになり，“鐘停著”も言えるはずである，ということになる。しかし実際は，“*死著”が言えないのと同様に，“*鐘停著”と言うことはできない。また，井上 2001 のように“死”を〈点〉しか持っていない事象とするならば，例えば前掲例文(7)“以爲她眞的死了”の“死了”のような場合でも変化の瞬間を述べていることになってしまう。

本稿では，“-了”を用いている(7)や(16)－(18)などの例は，あくまでも参照時における眼前の結果状態を述べているのであり，時間軸を遡って先行変化を述べているのではない，と考える。つまり，結果状態の有無は，“-著”と共起できるかどうかによるものではなく，変化の有無によるものであると考える。

15) 日本語では同じ点的変化動詞でありながら，期間表現との共起関係において，〈しばらく消えた〉〈*しばらく到着した〉というズレが見られる。影山 1996: 58 では，これを語彙本来の意味素性の違いによるものと捉え，〈消える〉は変化にも結果状態にも特別に固定された焦点を持たない語彙であるのに対し，〈到着する〉は変化だけに焦点を置く語彙であるとする。劉綺紋 2002b では影山 1996 にならい，中国語の変化動詞は語彙によって，その結果状態が“-著”で捉えられたり捉えられなかったりするというズレを，語彙本来の意味素性によるものであることを論じた。すなわち，その結果状態を“-著”で捉えることができるのは，特別に固定された焦点を持たない変化動詞である。それに対し，その結果状態を“-著”で捉えることができないのは，（行為から）変化までに焦点を置く変化動詞なのである。

〔用例出典〕（作品名の下線部は用例出典の略記号）

阿城（著）「樹王」（『棋王・樹王・孩子王』臺北：海風出版社，初版 10 刷，1996）
白先勇（著）「冬夜」「遊園驚夢」「歲除」「那片血一般紅的杜鵑花」「一把青」「金大班的最後一夜」「秋思」（『臺北人』臺北：爾雅出版社，1983）
林海音（著）『城南舊事』（臺北：爾雅出版社，1960）
劉大任（著）「長廊三號」（『杜鵑啼血』臺北：洪範書店，1990）
劉大任（著）『浮游群落』（臺北：皇冠文化出版，1997）

劉大任(著)『晩風習習』(臺北：皇冠文化出版，1998)
曾心儀(著)「彩鳳的心願」(『曾心儀集』臺北：前衛出版社，1992)
張愛玲(著)「連環套」(『張看』臺北：皇冠文學出版，1991)
張愛玲(著)「金瑣記」(『傾城之戀』臺北：皇冠文學出版，1991)
張愛玲(著)『赤地之戀』(臺北：皇冠文學出版，1991)
林正子・中村ふじゑ(訳)「彩鳳の夢」(『彩鳳の夢』東京：研文出版，1984)
池上貞子(訳)「金鎖記」(『傾城の恋』東京：平凡社，1995)
松永正義(訳)「冬の夜」(『彩鳳の夢』東京：研文出版，1984)
野間信幸(訳)「赤いつつじ」(『バナナボート』東京：JICC出版局，1991)
岡崎郁子(訳)『デイゴ燃ゆ』(東京：研文出版，1991)
杉野元子(訳)『城南旧事』(東京：新潮社，1997)
立間祥介(訳)「山の主」(『阿城　チャンピオン・他』東京：徳間書店，1989)
山口守(訳)「最後の夜」(『台北ストーリー』東京：国書刊行会，1999)

〔参考文献〕

春木仁孝 2001.「MOURIR の時制――「語り」における複合過去の機能――」(『現代フランス語のテンス・アスペクト・モダリティー』言語文化共同研究プロジェクト 2000，大阪大学言語文化部・大阪大学大学院言語文化研究科，pp. 1–14.)
井上優 2001.「中国語・韓国語との比較から見た日本語のテンス・アスペクト」(『月刊言語』30–13，2001 年 12 月，東京：大修館書店，pp. 26–31.)
Яхонтов, Сергей Евгеньевич. 1957. *Категория Глагола в Китайском Языке.* Ленинград: Издательство Ленинградского Университета.(橋本萬太郎(訳)『中国語動詞の研究』東京：白帝社，1987)
Jaxontov, Sergej Je. 1988. Resultative in Chinese. In V. P. Nedjalkov (ed), 1988, pp. 113–133.
影山太郎 1996.『動詞意味論』(東京：くろしお出版)
菅野裕臣(訳) 1992.『動詞アスペクトについて (II)』(学習院大学東洋文化研究所調査研究報告 35)
木村英樹 1997.「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」(『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』東京：東方書店，pp. 157–179.)
工藤真由美 1995.『アスペクト・テンス体系とテクスト――現代日本語の時間の表現――』(東京：ひつじ書房)
Li, Charles N., & Sandra A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar.* Berkeley: University of California Press.
梁紅 1999.「中国語の結果相 (resultative) とパーフェクト (perfect) ――「互換可能」な

“V着”と“V了”を中心に――」（『中国語学』246，日本中国語学会，pp.175–184.）
劉綺紋 2002a.「パーフェクトとしての“-了”と“-過”」（『岐阜経済大学論集』35–3，岐阜経済大学学会，pp.199–234.）
劉綺紋 2002b.「状態パーフェクトとしての“-著”」（『大阪大学言語文化学』11，大阪大学言語文化学会，pp.65–76.）
Маслов, Ю. С. 1984. Об основных понятиях аспектологии. In 菅野裕臣（訳），1992, pp.98–139.
Maslov, Jurij S. 1988. Resultative, Perfect and Aspect. In V. P. Nedjalkov (ed), 1988, pp.63–85.
森山卓郎 1988.『日本語動詞述語文の研究』（東京：明治書院）
Nedjalkov, Vladimir P. & Sergej Je. Jaxontov. 1988. The Typology of Resultative Constructions. In V. P. Nedjalkov (ed), 1988, pp.3–62.
Nedjalkov, Vladimir P. (ed). 1988. *Typology of Resultative Constructions.* Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.
Reichenbach, Hans. 1947. *Elements of Symbolic Logic.* New York: The Free Press.（石本新（訳）『記号論理学の原理』東京：大修館書店，1982）
Smith, Carlota S. 1997. *The Parameter of Aspect,* 2nd edn. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers.
楊凱栄 2001.「中国語の“了”について」（『「た」の言語学』東京：ひつじ書房，pp.61–95.）